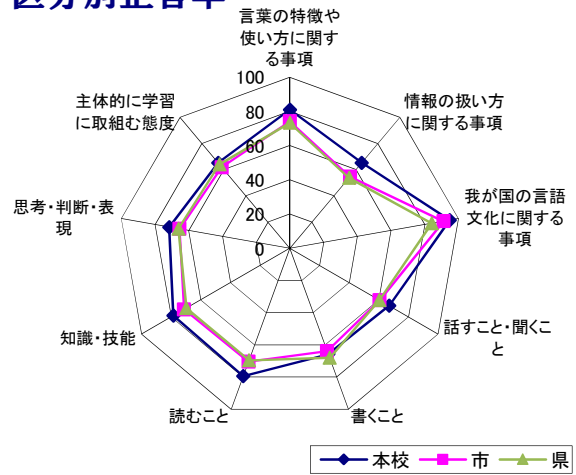


宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.0	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	65.3	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	94.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	67.0	60.6	60.4
	書くこと	65.7	63.8	68.0
	読むこと	79.4	70.4	69.6
観点	知識・技能	78.6	71.3	69.9
	思考・判断・表現	71.6	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	65.2	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

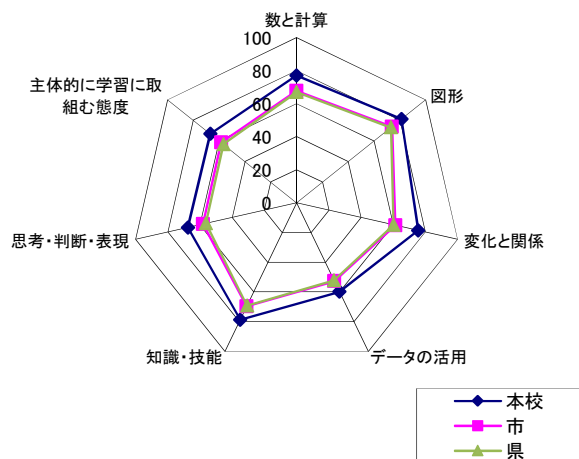
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を読む設問の正答率は、平均で97.9ポイントであり、十分に定着しているといえる。 ●漢字を書く設問の正答率は、平均で77ポイントであり、課題が残る。 ●修飾語についての設問の正答率が県と市を上回っているが、平均正答率が64.4%と十分満足とは言えない。	・漢字の学習については、新出漢字だけでなく既習の漢字も書く活動をできるだけ取り入れ、内容の定着を図る。 ・詳しく説明することを意識して書いたり、話したりするように日常的に指導するとともに、日本語の品詞について振り返る時間を設ける。
情報の扱い方に関する事項	○漢字辞典の使い方に関する設問では、市の平均を10.4ポイント、県の平均を11.6ポイント上回っており、漢字辞典の活用が定着しているといえる。 ●情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉える設問と理由や事例などを挙げる設問では、平均正答率が54.6%と課題がある。	・漢字辞典の使い方については、教室内に漢字辞典を置き、いつでも児童が調べられるようにする。 ・情報の活用方法について適切に活用ができるように文の構造や内容の展開を理解させ、論理的な思考の定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○本校の正答率は、市の平均を3.6ポイント、県の平均を10.6ポイント上回っている。ことわざについて十分に学習内容が定着しているといえる。	・ことわざの使い方については、ことわざを使う場面を授業の中で取り入れ、児童が普段の生活で正しく使えるようにする。
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は、市の平均を6.4ポイント、県の平均を6.6ポイント上回っている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問では、市・県の平均を上回っているものの、正答率が63.9%となっており、課題が残る。	・日頃の学習に意見を交流し合う活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べたり、相手の意見の大切なことや理由も正しく聞いたりすることを、繰り返し指導していく。
書くこと	ほとんどの設問において本校の正答率は、県と市の平均正答率は、ほぼ同じである。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書く設問では、正答率が7割を超えている。 ●指定された長さで文章を書く設問では、県の平均正答率より6ポイント下回っており、ある程度長い文章で自分の意見を述べることに課題がある。	・今後も、全教育活動において考えたことを書いて記録する活動を取り入れ、書くことに慣れることができようにする。 ・書いた文章を互いに読み合うなど、より伝わりやすく書くこととする意欲が高まる学習活動を意識的に取り入れることで、書くことの目的意識を育む。 ・根拠を明確にして自らの考えを表現する場を学習活動内に意識的に取り入れることで、伝わりやすい構成を意識できるようにする。
読むこと	本校の平均正答率は、県平均と比べ、各設問ですべてにおいて上回っている。 ○物語の登場人物の気持ちを読み取る設問では、県平均を13.3ポイント上回っている。 ○説明文の内容を的確に読み取る設問では、県平均を13.5ポイント上回っている。	・引き続き読書活動の充実と推進を図るとともに、物語文の学習では、人物や場面の変化を丁寧に読み取ったり、自分と対比して読んだりしながら、読み深める活動を取り入れる。 ・説明文の学習では、段落構成や筆者の考えを意識させながら、文章の内容を的確に読み取れるよう工夫する。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.1	67.8	67.0
	図形	81.3	73.9	73.1
	変化と関係	75.6	61.4	60.2
	データの活用	59.8	52.7	52.1
観点	知識・技能	78.7	69.7	69.2
	思考・判断・表現	67.6	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	66.9	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

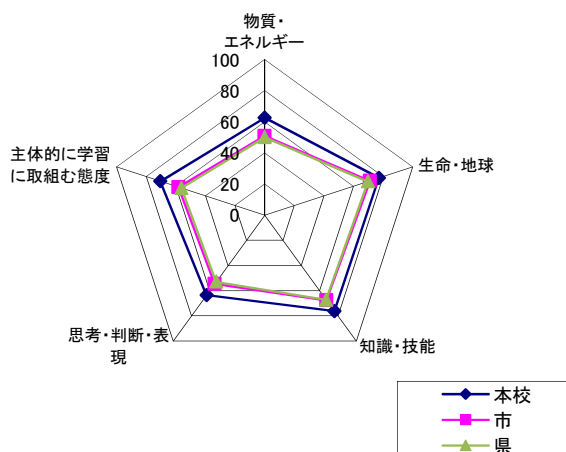
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を9.3ポイント、県の平均を10.1ポイント上回っている。</p> <p>○「億と兆・がい数の表し方」の概数に対する数の範囲を求める設問では、県の正答率を14.6ポイント上回っている。</p> <p>●どの設問も県や市の正答率を上回っているが、「わり算・計算のきまり」の除法の計算の仕方を工夫し、暗算の仕方を考える設問では、無回答が10.7ポイントと課題である。</p>	<p>・学習した内容で基本的な内容はほぼ身につけているが、普段の学習問題やプリント、テスト等において、無回答で提出することのないように、日ごろから指導継続していきたい。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を7.4ポイント、県の平均を8.2ポイント上回っている。</p> <p>○「いろいろな形」の四角形の辺の長さの性質を求める設問では、県の正答率を15.3ポイントと高く上回っている。</p> <p>●「面積」の1000円札のおよその面積の正答を選択する設問では、県や市の平均を上回っているものの48.5ポイントと低い。</p>	<p>・様々な図形の面積を求める学習だけでなく、普段より自分の生活と算数の学びを結び付けて考えられるように指導していきたい。身近な身の回りの物に注目し、長さや重さの見当をつけたり、数的に思考したりする楽しさを味わわせるような指導の工夫をしていきたい。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均を14.2ポイント、県の平均を15.4ポイント上回っている。</p> <p>○どの設問も県や市の正答率より高い。特に「変わり方調べ」の伴って変わる2つの数量の関係を式に表すという設問の正答率では、県や市の平均よりも30ポイント以上高い。</p> <p>●基準量と比較量から求めた割合を比較して説明する設問では、無回答が16.5ポイントと課題である。</p>	<p>・理科や算数の時間以外にも、様々な要素を比べるような学習を取り入れていく。また、その際、比較するための観点を整理し、比較するための見通しを立てたり、論理的に考えを説明したりすることができるよう指導する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を7.1ポイント、県の平均を7.7ポイント上回っている。</p> <p>○「折れ線グラフと表」の折れ線グラフの記述と、二次元表の読み取りの設問の正答率は、市や県の正答率よりも10ポイント以上、上回っている。</p> <p>●「折れ線グラフと表」の設問への無回答率が高く、記述の設問においては24.7ポイントと、全ての設問の中で最も高い。記述式の設問への課題が見られる。</p>	<p>・グラフや表を正確に読み取る技能を身に付けられるよう、一人一人の理解度を確認しながら丁寧に指導する。</p> <p>・データを読み取り、それを根拠に理由を説明できるよう、日頃から言葉や数を使って簡潔に説明する機会を多く設ける。</p> <p>・問題全体の内容を把握したり、時間配分を考えたりしながら落ち着いて問題に取り組むことを、日常的に指導する。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.5	50.8	50.0
	生命・地球	77.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	76.2	67.6	67.2
	思考・判断・表現	63.5	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	70.4	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を11.7ポイント、県の平均を12.5ポイント上回っている。</p> <p>○水を冷やした時の温度変化の様子を表したグラフを答える設問や空気、水、金属の温度による体積の変化の大きさを順に表す設問の正答率が県や市の平均より20ポイント上回っている。</p> <p>●物のあたためり方の単元では、立てた仮説の検証実験の結果を推測することに課題が見られる。</p>	<p>・児童が見出した問題に対して予想や仮説をもち、それらを基に見通しをもって観察・実験などの活動に取り組むことができるように支援していく。また、自然の事物・現象について抱いた疑問については自主的に追究していけるような支援をし、既習の知識を生かして解決しようとする姿勢が身につくように指導する。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を6.1ポイント、県の平均を7.4ポイント上回っている。</p> <p>○天気の様子と気温の設問において、一日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断しその理由を説明することについて正答率が県や市の平均よりおよそ20ポイント近く上回っている。</p> <p>●月と星の設問で方位磁針の正しい使い方について、県や市の平均を上回るものの、全体の正答率が4割程度にとどまっており今後の課題である。</p>	<p>・自然の事物、現象の変化や働きについて、今後も興味・関心をもって追究できるよう、体験的な活動を取り入れていく。</p> <p>・方位磁針の使い方に関しては、今後の学習の中で実際に使いながら、正しい知識を身に付けることができるようにする。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家では予習している」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」と肯定的回答をした児童の割合はそれぞれ(64.1%) (69.8%) (74%)と市や県の肯定的回答割合を上回っている。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」への肯定的回答割合は(79.2%)である。これらの結果から、児童は「予習⇒授業⇒テスト⇒復習」の学習のサイクルを意識して家庭学習に取り組んでいることが分かる。

○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」について肯定的回答した割合は(82.3%)、また「友達の話最後まで聞くことができる。」について肯定的回答をした割合は(96.6%)と、市や県の平均と比べ上回っていることから、本校では学習活動の中で、友達の考えをよく聞いて理解し、自分の考えと比較して思考をひろげることができることが分かる。これは、普段からノートに自分の考えをまとめたり、お互いの考えを交流したりする機会を設けている成果が表れていると考えられる。今後も、自分の考えをしっかり持ち交流する活動を、安全面に配慮したうえで工夫して取り入れていく。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と「学習について自分から進んで取り組んでいる」について肯定的回答した児童の割合は、どちらも市や県の平均をやや下回っている。自分から課題を見つけ、意欲的に学習に取り組んでいる児童は多いが、主体性に個人差があると思われる。児童の様子を観察し、自分から進んで取り組めるよう個々に合わせた支援する。

●「理科の学習は好きか」の問いに対して肯定的回答をした児童は、市・県の平均と比べて下回った。コロナ禍で、実験や観察が完全に実施できず、理科の楽しさを感じる機会が減ってしまっているためと考えられる。実施方法を工夫し、できるだけ児童が実験・観察が実施できるよう配慮することで、理科の楽しさを実感できるようにしていく。